

# 平成22年度「株式学習ゲーム」の実施状況と 参加校からのアンケート調査結果について

日本証券業協会  
株式会社東京証券取引所グループ

「株式学習ゲーム」は、中学生・高校生を主な対象として、株式の模擬売買を通じて現実の生きた経済や市場の動きを身近に感じながら、経済の動きや社会の仕組みなどについて体験的に学習するプログラムとして、日本証券業協会、東京証券取引所グループが学校向けに提供している教材である。

## 1. 実施状況

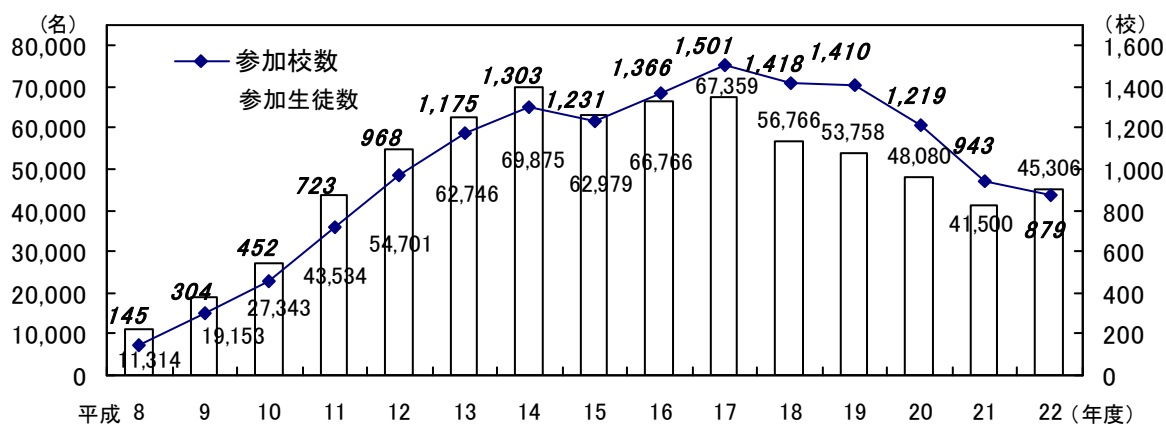
### (1) 参加校数・参加生徒数など

平成22年度は、他の学習教材との競合や中学校での新学習指導要領の移行期間入りに伴う実施時数の確保難などにより、合計参加校数は前年度（943校）より減少し、全国で879校となったものの、1校あたりの参加人数が多かったため、参加人数は前年度（41,500人）より3,806人増加し、45,306人となった。

(第1表) 参加校数・参加生徒数（春季・秋季・冬季別）

実施期間	参加方式	参加校数(校)	参加生徒数(名)
春季 (平成22年4月12日～8月6日)	マークシート方式	53	3,791
	インターネット方式	154	6,343
	(両方式計)	207	10,134
秋季 (平成22年8月16日～12月17日)	マークシート方式	96	7,312
	インターネット方式	324	16,140
	(両方式計)	420	23,452
冬季 (平成23年1月11日～2月28日)	マークシート方式	59	3,294
	インターネット方式	193	8,426
	(両方式計)	252	11,720
年間合計	マークシート方式	208	14,397
	インターネット方式	671	30,909
総合計	(両方式合計)	879	45,306

(第1図) 参加校数・参加生徒数の推移



※1 平成14年度以降はインターネット方式が併行導入されたため、従来方式のマークシート方式と合算した数字となっている。

※2 平成17年度に複数学期にまたがって参加した学校の集計方法について見直しを行った結果、平成14～16年度の数字が一部修正となった。

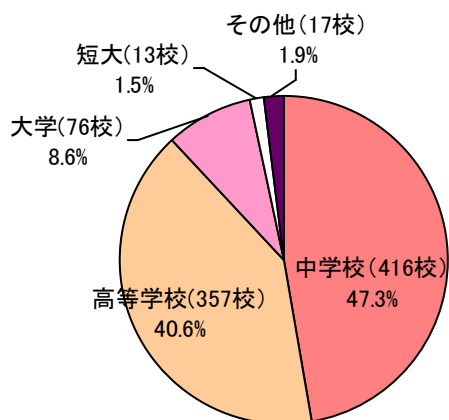
参加校（879校）の内訳は、中学校が47.3%（416校）と半数程度を占め、次いで高等学校40.6%（357校）、大学8.6%（76校）、その他の学校等が3.4%（30校）だった。

ちなみに、前年度の参加校数（943校）の内訳は、中学校が53.2%（502校）、高等学校38.7%（365校）、大学5.0%（47校）、その他の学校等が3.1%（29校）であった。前年度と比べて、中学校は86校減（17.1%減）と大幅に減少したものの、大学では29校増（61.7%増）と大幅に増加した。

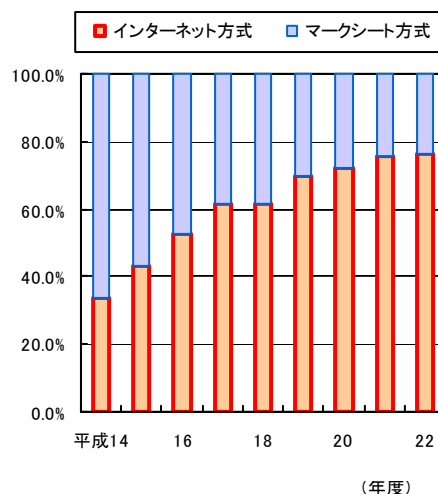
また、期間別の参加校数の内訳は、春季23.5%（207校）、秋季47.8%（420校）、冬季28.7%（252校）となっている。

なお、平成14年度より導入したインターネット方式による参加比率は76.3%（全参加校879校のうち671校）となり、年々、増加傾向（昨年度75.8%）にあるものの、近年では頭打ち傾向にある。

（第2図）参加校（879校）の内訳



（第3図）方式別の参加比率の推移



## （2）売買の傾向

平成22年度（3期間合計）において、売買回数の最も多かった銘柄は、ソフトバンクだった。以下、2位任天堂、3位ソニー、4位グリーン、5位ドン・キホーテ、6位カプコン、7位オリエンタルランド、8位ヤフー、9位トヨタ自動車、10位パナソニックの順となった。

例年と同様に、ゲーム関連会社や携帯電話会社などのほか、知名度が高い会社や生徒にとって身近に感じる会社などの売買回数が多かった。

（第2表）売買回数の多い銘柄一覧（過去3年分）

順位	平成20年度	平成21年度	平成22年度
1位	任天堂	任天堂	ソフトバンク
2位	ソニー	ソニー	任天堂
3位	ソフトバンク	ソフトバンク	ソニー
4位	ローソン	トヨタ自動車	グリーン
5位	アサヒビール	アサヒビール	ドン・キホーテ
6位	ヤフー	ニトリ	カプコン
7位	トヨタ自動車	ローソン	オリエンタルランド
8位	カプコン	ドン・キホーテ	ヤフー
9位	NTTドコモ	ファーストリテイリング	トヨタ自動車
10位	コナミ	ヤフー	パナソニック

## 2. アンケート調査結果

毎年、株式学習ゲームの終了後、参加した学校の先生方を対象にアンケート調査を実施している。平成22年度は、261校（中学校126校、高等学校105校、大学その他30校）から回答を得た。回答内容等の詳細については、以下のとおりである。

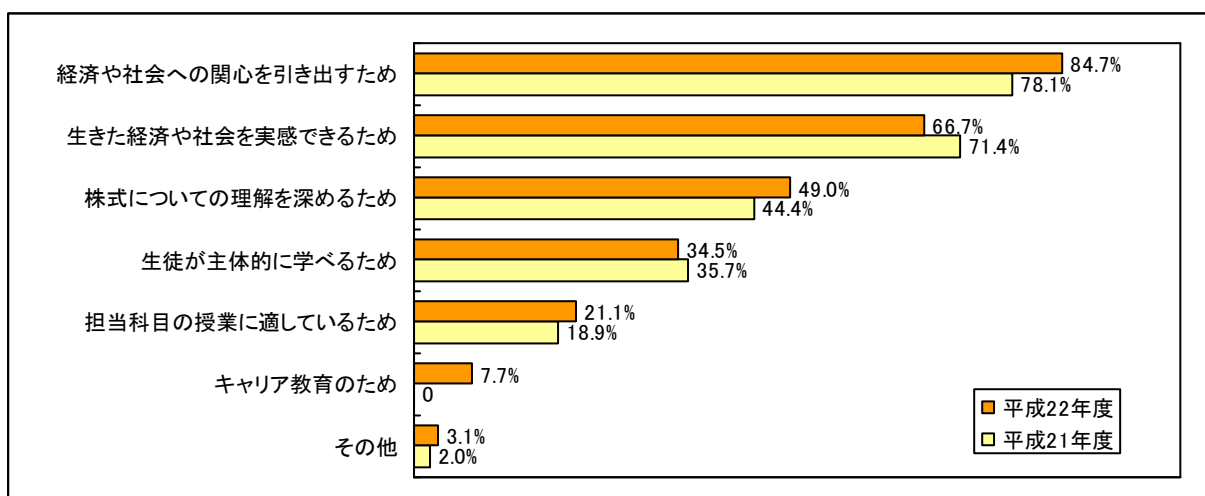
### （1）株式学習ゲームを教材として導入した理由について（複数回答）

本教材を導入した理由について尋ねたところ、「経済や社会への関心を引き出すため」という回答が84.7%（221校）と最も多かった。

次いで、「生きた経済や社会を実感できるため」66.7%（174校）、「株式についての理解を深めるため」49.0%（128校）、「生徒が主体的に学べるため」34.5%（90校）、「担当科目の授業に適しているため」21.1%（55校）、「キャリア教育のため」7.7%（20校）などが挙げられた。そのほかでは、「チームでのコミュニケーション力、意思決定力を養うため」、「株式に興味を持たせることで、1人でも多くの学生が日本の株式市場に将来参加してもらえれば、と思ったため」といった回答も寄せられた。

教科書だけではなく、実際の経済や社会の動きに目を向けさせることで生徒の興味・関心を引き出そうと考えている先生が多いようである。

（第4図）教材として導入した理由



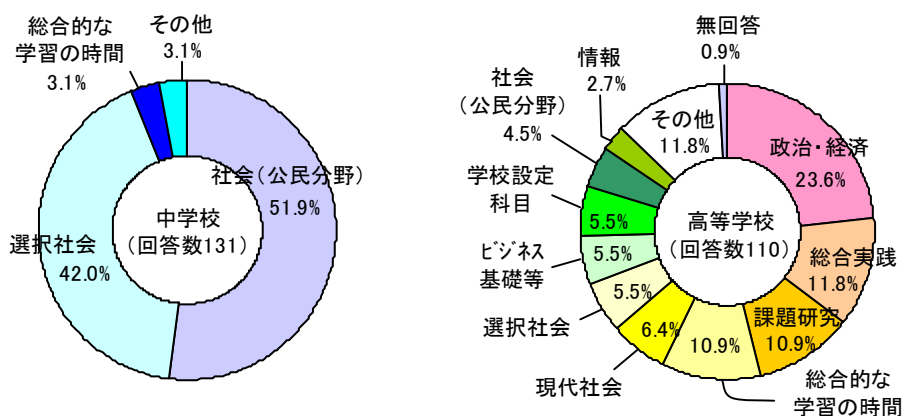
### （2）実施した授業科目について

実施した授業科目について尋ねたところ、中学校（回答数131校※）では、「社会（公民分野）」51.9%（68校）、「選択社会」42.0%（55校）などが多かった。

一方、高等学校（回答数110校※）では、「政治・経済」の授業での実施が23.6%（26校）と最も多く、これに「総合実践」11.8%（13校）、「課題研究」10.9%（12校）、「総合的な学習の時間」10.9%（12校）、「現代社会」6.4%（7校）、「選択社会」5.5%（6校）などが続いた。

授業科目についてはほぼ例年と同じような回答内容だったが、割合について比較すると、中学校では、前年度最も多かった「選択社会」が66.0%から42.0%に急減したのに対し、「社会（公民分野）」は32.0%から51.9%に急増し、半数以上を占める結果となった。

（第5図）株式学習ゲームを実施した授業科目



※126校のうち、5校で複数科目の回答あり。

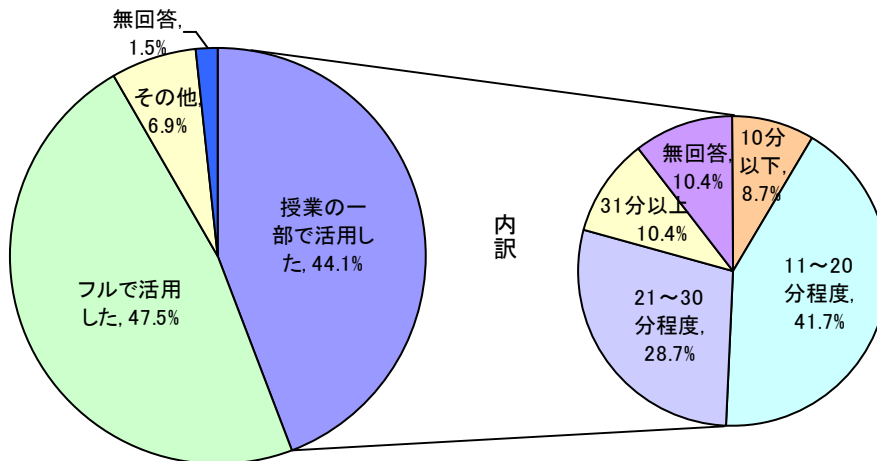
※105校のうち、5校で複数科目の回答あり。

### (3) 株式学習ゲームの活用時間と取引頻度について

一回の授業時間のうち、本教材をどの程度活用したかを尋ねたところ、「授業時間を全て活用した」との回答が最も多く47.5% (124校)、これに「授業時間の一部で活用した」との回答が44.1% (115校)と続いた。そのほかの回答として「授業外で自由に取引させた」、「導入初期にはフルで活用し、理解が進むと一部で活用した」などがあった。

また、取引頻度については、「週に一回程度」が51.7% (135校)と最も多く、次いで「二週間に一回程度」が15.7% (41校)、「月に一回程度」が7.3% (19校)、「自由取引」が4.6% (12校)、「週に二～三回程度」が3.4% (9校)あった。

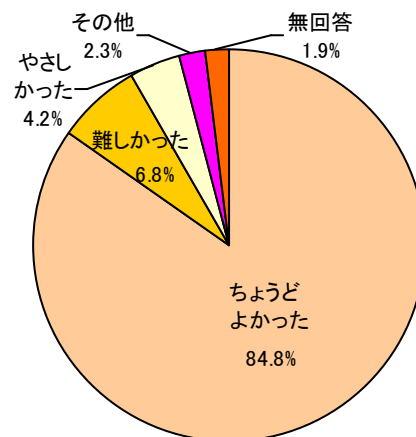
(第6図) 株式学習ゲームの活用時間



### (4) 株式学習ゲームの難易度について

本教材の難易度について尋ねたところ、「ちょうどよかった」と回答した学校が84.8% (223校)と最も多かったが、「難しかった」と答えた学校も6.8% (18校)あった。その理由として「売買単位の計算など、購入の仕方が難しい」(4校)や「内容を理解するのに時間がかかる」(2校)、「資料の読み取りや情報収集が困難」(2校)、といったことが挙げられた。また、「やさしかった」と答えた学校は4.2% (11校)あった。

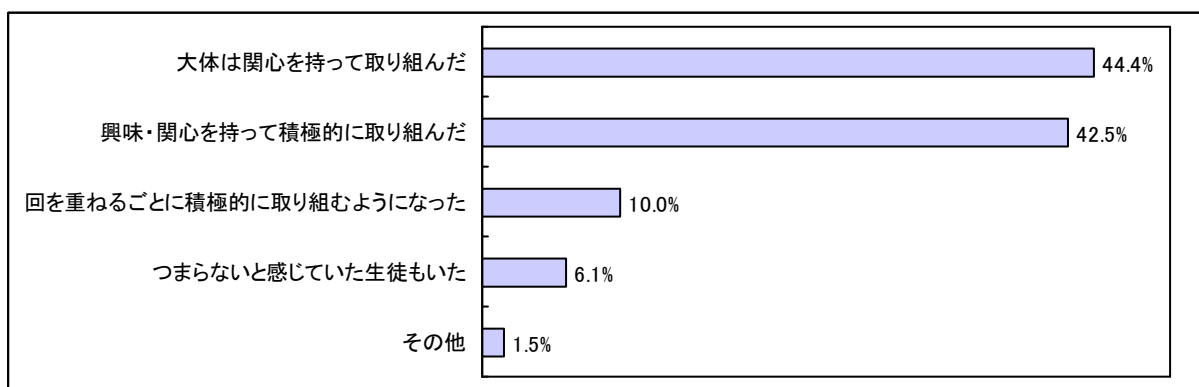
(第7図) 株式学習ゲームの難易度について



### (5) 生徒の取り組み姿勢について (複数回答)

生徒の取り組み姿勢について尋ねたところ、最も多かったのは「大体は関心を持って取り組んだ」という回答で44.4% (116校)だった。以下、「興味・関心を持って積極的に取り組んだ」42.5% (111校)、「回を重ねるごとに積極的に取り組むようになった」10.0% (26校)、「つまらないと感じていた生徒もいた」6.1% (16校)などの順だった。

(第8図) 生徒の取り組み姿勢について



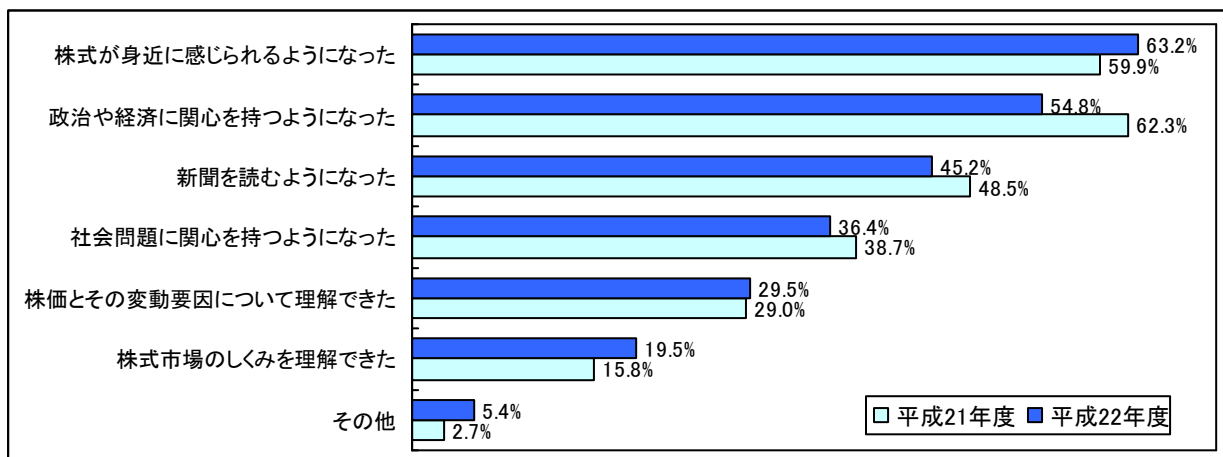
## (6) 株式学習ゲームによる学習効果について（複数回答）

本教材を授業に導入して、どのような学習効果があったかについて尋ねたところ、「株式が身近に感じられるようになった」との回答が63.2%（165校）と最も多く、以下、「政治や経済に関心を持つようになった」54.8%（143校）、「新聞（株式欄、政治・経済面、社会面）を読むようになった」45.2%（118校）と続いた。

また、「社会問題に関心を持つようになった」36.4%（95校）、「株価とその変動要因について理解できた」29.5%（77校）、「株式市場の仕組みを理解できた」19.5%（51校）などの回答があった。

そのほか、「企業の取り組みについて知ることができた」、「進学する際の主な動機となった」、「チームの友人と協力して学習し、まとめる力がついた」といった回答も寄せられた。

（第9図）株式学習ゲームによる学習効果について



## (7) 提供教材以外に利用した教材等について

本教材を使った授業を進める上で、独自に利用した資料等について尋ねたところ、「新聞（記事の抜粋を含む）」が41校、「インターネット（Yahoo!ファイナンス、各新聞社、金融関連、各企業）のサイトなど」が16校、「会社四季報・会社情報」が8校であった。

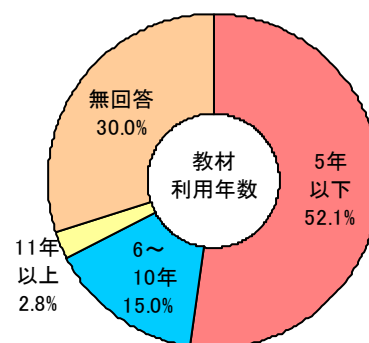
そのほか、「日経業界地図」、「株入門」（ダイヤモンド社）、『14歳からのお金の話』（池上彰著）などの市販の経済・株式の書籍や経済雑誌、DVD教材「おだんご娘。とフシギな経済テレビジョン」（証券知識普及プロジェクト）などが挙げられた。また、他団体が提供する教材を併用する学校や、実際の有価証券報告書や決算短信、株券のコピーなどを利用した学校もあった。

## (8) 株式学習ゲームの継続利用状況について

本教材を以前から利用している学校（回答数213校）へ利用年数について尋ねたところ、「1～5年」が52.1%

（111校）、「6～10年」が15.0%（32校）、「11年以上」が2.8%（6校）であった。

（第10図）株式学習ゲームの継続利用状況



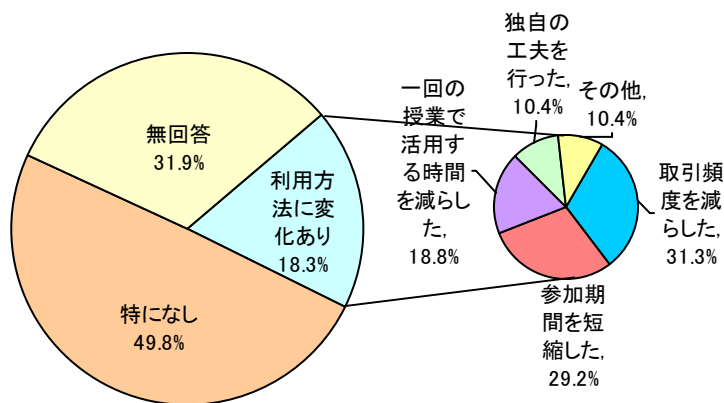
### (9) 学習指導要領改訂の影響について

継続して利用している先生に、学習指導要領改訂を受けて、本教材の利用方法・利用時間等に変化があったかどうかを尋ねたところ、「特になし」と答えた学校が49.8% (106校)、「利用方法に変化があった」と答えた学校が18.3% (39校)であった。

変化のあった学校からは、「取引頻度を減らした」31.3% (15校)、「参加期間を短縮した」29.2% (14校)、「一回の授業で活用する時間を減らした」18.8% (9校)、「独自の工夫を行った」10.4% (5校)等の回答を得た。

なお、学習指導要領改訂の影響について学校別に比較しても、大きな差は見られなかった。また、「来年はもっと増やしたい」という積極的な意見もあった。

(第11図) 学習指導要領改訂の影響について



(第3表) 学習指導要領改訂の影響について (学校別回答数内訳)

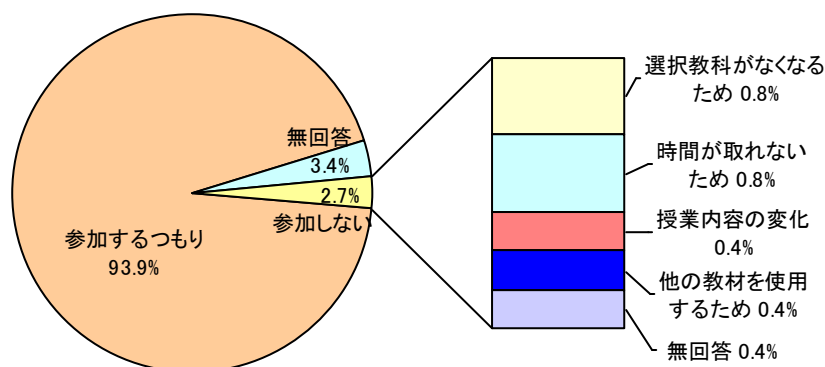
学習指導要領の改訂の影響について	回答数 (校)	学校別 回答数内訳		
		中学	高校	大学他
特になし	106	49	42	15
取引頻度を減らした	15	10	4	1
参加期間を短縮した	14	5	6	3
一回の授業で活用する時間を減らした	9	8	1	0
独自の工夫を行った	5	2	3	0
その他	5	1	2	2

### (10) 今後の参加予定について

今後の参加予定について尋ねたところ、今後も「参加するつもり」と回答した学校が93.9% (245校)に及んだ。「参加するつもり」と回答した学校からは、「学校の実情に応じて時間数を調整でき、活用しやすかった」、「生徒が主体的に学ぶ習慣を身に付けることができ、他教科にも好影響があったと感じている」、「生の経済を感じるために授業の中で部分的に利用することのできる点で良いと考える」、「生徒は大変意欲的に取り組み、通常の授業以上に理解を深めることができた」などの感想が寄せられた。

一方、「参加しない」と回答した学校は2.7% (7校)あり、その理由は「選択教科(社会)がなくなるため」、「時間が取れないため」、「授業内容の変化」、「他の教材を使用するため」などが挙げられた。

(第12図) 今後の参加予定について



**参考：以下は、アンケート調査と併せて、参加校の先生方から提出していただいた株式学習ゲームについての意見や感想等の概要である。**

**I. 先生方から見た生徒の反応、感想等**（自由記入：261校中128校より回答を得た）

**1. 全体的な生徒の反応、感想等**

先生方から見た生徒の反応についての全体的な感想としては、「世の中の動きにきちんと目をむけることの大切さ、その動きから得た情報を自分で分析し、その後どのように変化していくかを予測することの大切さを学んだ」、「ニュースや新聞を読んだり聞いたりするようになって、今の日本の情勢を詳しく知ることができた」、「実際に前日比を見たり、株価の上下を見たりしていると、社会のつながりが理解できて面白かった」、「就職活動で会社を調べることが多くなると思うので、学んだことを生かしたい」などの回答が寄せられた。

生徒たちは本教材を通じて、単に株価の動きに注目するだけではなく、経済・社会・企業についても身近に感じ、興味・関心を持って学習した様子が見えてくる。

（第ⅰ表）

先生方から見た全体的な生徒の反応、感想等 (原文を要約後、区分)	回答数 (校)	学校別 回答数内訳		
		中学	高校	大学他
新聞やニュースに関心を持つようになった	41	18	18	5
楽しく取り組むことができた	41	19	18	4
苦労した・難しかった	21	8	12	1
経済や社会のことが分かった（関心を持った）	19	7	9	3
もっとやりたかった・勉強したかった（またやりたい）	18	8	8	2
結果や順位が出るのが楽しみだった	15	10	5	0
良い体験ができた	11	4	5	2
企業について興味・関心を持つようになった	8	3	5	0
将来（就職活動等）に役立つと思った	7	2	2	3
みんなと協力してできた	7	3	3	1
株式や経済が家族との話題になった	5	2	2	1
実際に株式の取引をしているようだった	5	4	1	0

**2. 株式についての生徒の反応、感想等**

先生方は当初、生徒が株式投資をゲーム感覚でとらえてしまうのではないかと懸念を持っていたが、実際に参加した生徒からは「もっとニュースや新聞を通じて経済、景気、社会、株価に興味や関心を持ち、勉強しなくてはいけないと思った」といった感想が寄せられた。

また、「株の売買を学んだことで、自分がする行為には自分が責任を持つことや、何事も臨機応変に対応することが、経済の中でとても大切になる、ということを知ることができた」、「自分の買っている企業を調べたり、買うために企業を調べたりするので、いろいろな企業のことを知ることができて良いと思った」といった感想も生徒から寄せられている。

生徒たちが単なるゲーム感覚で参加しているのではなく、真剣に取り組んでいる様子が見えてくる。また、株式や企業活動に対する理解が深まっている状況も見受けられる。

（第ⅱ表）

先生方から見た株式についての生徒の反応、感想等 (原文を要約後、区分)	回答数 (校)	学校別 回答数内訳		
		中学	高校	大学他
株式などの仕組みが理解できた	32	17	13	2
株式に興味・関心を持つようになった	31	17	11	3
株式投資は面白い	13	4	6	3
将来、株式投資はしない	10	4	5	1
将来、実際に株式投資をしてみたい	9	4	4	1
株式投資には知識や情報が必要	9	2	6	1
株価の予測は難しい	5	3	1	1

## Ⅱ. 先生方から寄せられた感想等 (自由記入：297 校中 159 校より回答を得た)

### 1. 授業に取り入れた効果・感想や課題など

寄せられた感想では、「経済は動いているということを実感できる教材であり、順位を競えるところが、生徒のやる気を引き出せて良かった」、「生徒達は大変意欲的に取り組み、通常の授業以上に理解を深めることができた」、「学校の実情に応じて時間数を調整でき、活用しやすかった」、「初めて利用したが、初心者にも分かるように丁寧に教示してあったのでスムーズに授業を進めることができた」、「株式会社の仕組みや株価の変動の仕組みを勉強しながら日本の経済に関心を向ける良い教材だと思う」というような回答が寄せられた。本教材は、現実の株価の動きを身近に感じられるため、生徒が生きた経済の動きや社会の仕組みに興味・関心を持って学習することができる授業となっているようである。

一方、「本教材を使うための時間をどう編み出すかを年間計画でしっかりと考えて確保しておかねばならない」、「数ヶ月間やらせていくと、どうしても途中から株価を追い求めることがメインになっていってしまったので、社会情勢や、企業の状態を気にして、そこをメインで考え、売買に臨めるようにしていくことが課題だと感じた」、「同様の内容のものを高校時代に体験してきた学生もいて、大学教材としてはより高度なものが求められているようである」という意見も寄せられた。

(授業に取り入れたことによる効果・感想など)

・今後も継続して活用していきたい	35 校
・生徒が意欲的だった	15 校
・使い勝手がよかった (分かりやすかった)	13 校
・良い教材だと思った	10 校
・経済への興味・関心を引き出すのに役立った	7 校
・楽しみながら学習できた	5 校
・生の経済を実感できた	4 校

(今後の課題点など)

・投機的売買になってしまう	6 校
・指導が難しかった	4 校
・授業時間数、回数不足	4 校
・教材が中高生向けで扱いづらい (大学)	2 校
・相場が停滞気味で興味を持たせるのが難しかった	2 校
・生徒の興味を持続させるのが難しかった	2 校

### 2. 授業での工夫やアレンジなど

工夫している点やアレンジしている点については、「独自のワークシート等を作成し、提出させた」という意見が最も多く 32 校あり、売買理由や購入した企業のニュース・最近のニュースなどを調べさせて記入させたり、グラフを作成して提出させるといった学校が多いようである。

また、プレゼンテーションを行ったと答えた学校では、「応援したい企業への提案をプレゼンさせた」や「購入や売却の時に、その理由を発表させた」といった学校があった。企業研究を行ったと答えた学校では、「キャリア教育の視点からの企業調べ」や「夏休みの課題として、注目する企業や業界の新聞記事やニュース、インターネットの記事を集め、その企業を調べ学習させた」といった意見もあった。そのほか、生徒の興味・関心を高めるため、取引結果や順位を廊下等に掲示したり、教師も参加し順位を競ったり、証券取引所の見学を行ったりする学校もあった。

(第 iii 表)

工夫している点・アレンジしている点等 (原文を要約後、区分)	回答数 (校)	学校別 回答数内訳		
		中学	高校	大学他
独自のワークシート等を使用した	32	15	16	1
時事問題 (新聞、テレビのニュース、インターネット) を取り上げた	31	12	16	3
売買理由を明確にさせた	20	10	7	3
プレゼンテーションを行う	10	1	4	5
企業研究 (CSR・ニュース・企業見学など)	9	3	2	4
取引結果や順位を廊下等に掲示した	8	6	2	0
売買の際にテーマ・条件を決めて行った	5	3	2	0
教師も株式学習ゲームに参加した	3	1	2	0
証券取引所の見学等	3	1	1	1

以上